

- * **【主】** よ深い淵から私はあなたを呼び求めます。主よ私の声を聞いてください。私の願いの声に耳を傾けてください。（詩130：1～2）絶望の淵からの叫び「深い淵」にある詩人は自分ではどうしようもない絶望の中にある。周囲は真っ暗出口も見えない。それは重い肉体的、精神的病なのかもしれない。あるいは様々な人間関係における困難に打ちひしがれているのかもしれない。人はそのような時、絶対的なもの、神の助けを呼び求める。
- * **【主】** よあなたがもし不義に目を留められるなら主よだれが御前に立てるでしょう。（130：3）しかし、この詩人の苦悩は、さらに厳しいものである。それは霊的な絶望である。「義」であり「聖」である神。神は不義、不正を嫌われる。私たちの悪や罪に対して決して放っておかれない。必ず裁きがあり、罰がある。「怒ったら怖い」存在なのである。人間は誰でも、そのような神の前では無に等しい。私は今罪の中にいてあなたとの交わりが無くなってしまっていると、この詩人は強く感じているのである。
- * しかしあなたが赦してくださるゆえにあなたは人に恐れられます。（130：4）しかし一方、私たちの神は、私たちが自分の罪を認識して告白すれば、そのような私たちの不義、罪を赦してくださる方でもある。厳しいだけではない、憐れみ深く、愛なる方である。この詩編は悔い改めの詩編の一つであり、新約の福音が深く語られている「パウロ的詩編」（ルター）である。
- * 私のたましいは夜回りが夜明けをまことに夜回りが夜明けを待つのにまさって主を待ちます。（130：6）「待ち望む信仰」。私たちは、苦境に陥ったとき、主を、イエス・キリストを待ち望もう。正直に自分の心情や状況を示して神の応答を待つ。答えはいつ与えられるかわからない。すぐにあることは稀である。それでも必ず最善の答えがあると信じて忍耐をもって待つことである。最後には必ず恵みと喜びと平安が与えられる。